

Editor's eye

・特集・

psoriatic disease ～全身疾患へのアプローチ～

編集担当 山本 俊幸

昨今、学会のセミナーでも乾癬の併存症に焦点をあてたものが多くみられ、psoriatic diseaseといういい方も定着しつつある。まず「Topics」では、近畿大学内科の前田法一先生に、善玉アディポカインであるアディポネクチンがメタボリック症候群や乾癬において果たす意義や病態について、基礎的な検討を交えながら詳細に解説いただいた。乾癬の併存症の中でも心血管病変、とくに動脈硬化症や心筋梗塞は生命予後を左右する。「総説1」では、循環器内科の専門家の立場から東京医科歯科大学の吉田雅幸先生に、動脈硬化症を疑った場合の検査法や、乾癬と動脈硬化症に共通する病態についても解説いただいた。尋常性乾癬や関節症性乾癬はpsoriatic diseaseに入るが、汎発性膿疱性乾癬 (generalized pustular psoriasis: GPP) に関しての併存症を扱った論文は意外に少ない。GPPの頻度は低いが、筆者はこれまでなぜか多くの症例に遭遇してこれたので、「総説2」で紹介した。「展望」では山崎文和先生に、乾癬患者の心血管病変の冠動脈CT造影検査の有用性や、生物学的製剤の心血管病変に対する効果についても解説いただいた。「統計」では、基幹病院における乾癬患者のメタボリック関連併存症の現状について、大石直人先生に紹介いただいた。慢性疾患にはさまざまな新しい用語も使われてきているが、生涯累積疾病負荷という言葉もそうかもしれない。

「臨床例」は、生物学的製剤使用中に生じた脳梗塞やIgA腎症、小児乾癬患者の併存症(肥満、脂質異常症、関節炎)、肥満に対する食事指導・生活指導、また、乾癬との合併が比較的まれな疾患(壊疽性膿皮症、抗ラミニンγ1類天疱瘡、腎不全)など、興味深い症例を執筆いただいた。併存症とは少しずれるが、清原らの論文は、産後6カ月で疱疹状膿痂疹を発症している。通常、疱疹状膿痂疹は妊婦のGPPと考えられ、妊娠後期～産褥期に発症する。これだけ間隔が空いて発症した症例も妊娠性疱疹と考えるのか、もし妊娠や分娩と関係ないとしたらほかにトリガーは考えられるのか、また妊娠中は時期によってサイトカインバランスが変調するが、分娩後どれくらいで元に戻るのか、などいろいろな疑問を投げかけてくれる症例である。逆に、SAPHO症候群とGPPの合併例の報告は、どうしてSAPHO症候群なのか、読んでもいまひとつわからなかった。さまざまな観点から考えるに値する症例と思われる。本号をお読みいただくことで、乾癬を一段高い視点から見直していただきたい。